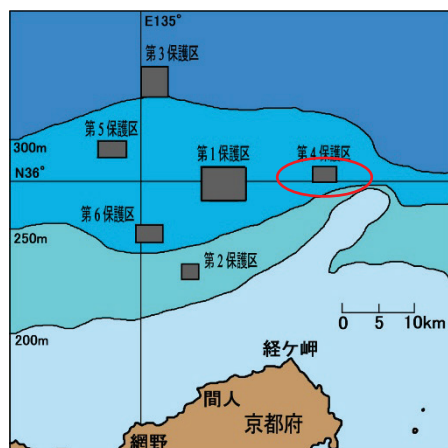


カニ漁期終了後の保護区内外のカニ簞調査

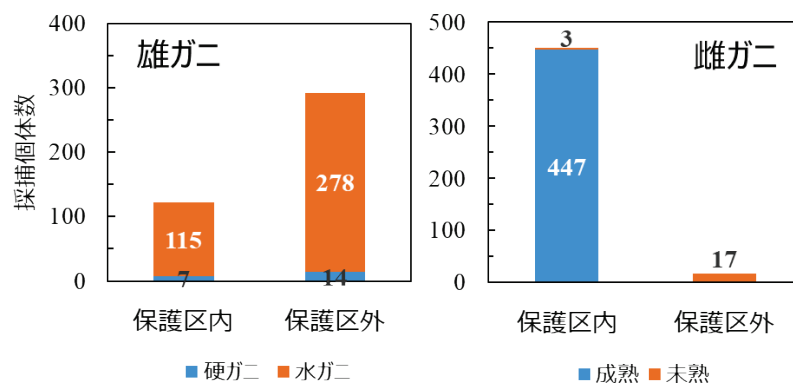
ズワイガニ資源の維持、増大を目的に設置された「保護区」の効果を調べるために、カニ漁期終了後の4月7～8日に、海洋調査船「平安丸」によるカニ簞調査を実施しました。今回は「第4保護区」を対象に、区内と区外で各25簞を用いてズワイガニを採捕、甲羅等を測定したのち全て標識放流しました。

保護区内では漁期中の2～3月頃に幼生をふ化した成熟雌ガニが多く採捕され(447個体)、この保護区がズワイガニの再生産の成功率を高めたことが示唆されました。一方、保護区周辺では脱皮後間もない水ガニ※が多く採捕(278個体)されました。水ガニは漁業者の自主規制により漁獲禁止となっていますが、カニ漁の網に入った場合、リリース後には多くが死亡することが分かっています。今後は、水ガニを保護することにより、ブランド蟹がどの程度増えるのかを試算し、保護区の周辺での操業自粛など、具体的な方策を提案していきます。

※ 水ガニ:未成熟な雄ガニで、1～3年後にはブランド蟹となる。



調査を行った第4保護区



区内外でのズワイガニの採捕結果